

教科	算数	単元名	分数と小数、整数
----	----	-----	----------

本時のねらい

小数を分数で表すことができる。(10や100を分母にすることで表すことができる)

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- デジタル教科書を使用し、数直線に書き込む活動を取り入れたことで、数直線をノートに板書する際に手立てを要する児童には特に有効。
- 数直線をただ書くだけでなく、矢印や○をつけたりして、分数と小数の関係性を視覚的にとらえることをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC
- ・学習アプリ(東書タブレットドリル)
- ・日本文教出版デジタル教科書(算数)
- ・大型モニター

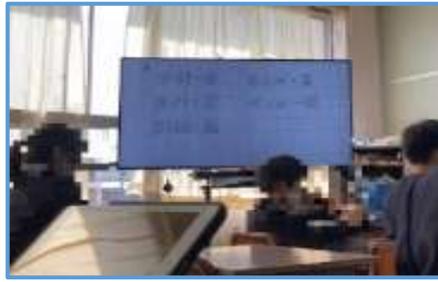
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習 ・分数を小数で表す ($2 \div 5 = \frac{2}{5} = 0.4$) ○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 小数を分数で表す方法を考えよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の前時の書き込みを見てスムーズに振り返り、分数から小数へは表せるが、小数から分数へ表せるかという本時のめあてにつながるようにする。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○小数を分数で表す。 ・0.9は分数で表すと何になるか、0.07は分数で表すとどうなるかなどを自分の力で取り組む。 ○班のメンバーで交流する。 ただ単に教科書の穴埋めを行うのではなく、どう考えたのか、考える時に重要と感じたことやわかったことをデジタル教科書に書き込む。 ○練習問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書に矢印や○を書き込むことができ、視覚的に分数と小数の関係性を理解することができる。 ・練習問題の答え合わせをする際は、児童のノートの画像を大型モニターに映し出し、板書する時間を削減し、できる限り机間指導の時間に充てることできる。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめをする ○ふりかえりをする。 ・東書のタブレットドリルを使って、児童がそれぞれ自分に合ったコースを選択し、練習問題を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットドリルを使うことで、自分のペースで問題を解くことができ、丸付けも行える。そのため個別の支援がしやすくなる。

1人1台端末を活用した活動の様子



デジタル教科書に答えを書き込みたいと思ったことも書き込む場面



大型モニターを利用し、児童のタブレット画面をミラーリングして、問題の答え合わせをしている場面



学習アプリを使用し、自分に合ったコースを選び、知識の定着を図っている場面

児童生徒の反応や変容

- ・デジタル教科書のコンテンツを使い、自分のすぐ近くで拡大したり、書き込んだりできるため、自分なりの意見もちやすくなり、小数と分数の関係性について話し合いが活発に行われた。
- ・児童は画面を拡大して分数と小数などの解答やわかったことを書き込むことができた。また、マーカーを使用して視覚的に分かるように自分なりにアレンジをし、自分の学びを深めることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・今までは数直線のプリントを用意していたが、タブレットを使用すると拡大したり色を変えたりして自分で分かりやすいように書き込むことができる。
- ・タブレットドリルは、一人ひとりの習熟度や目標に合わせて自分のペースで自分に合った学習を行うことができる。